

大型物流施設「センコー泉南PDセンター」を竣工 ～グループへの物流施設賃貸、電力自己託送を開始～



センコー泉南PDセンター外観

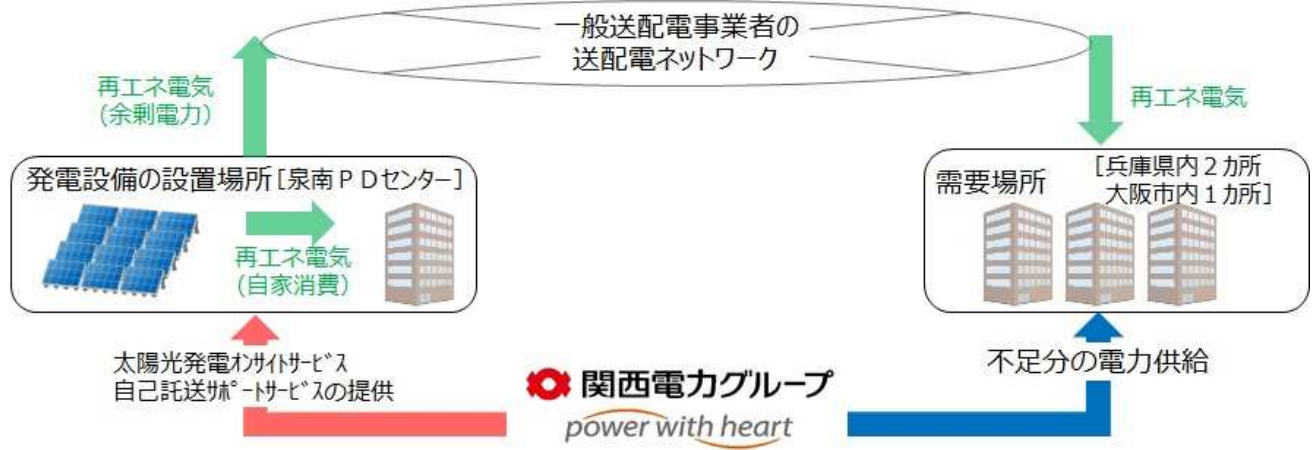
センコーグループホールディングス株式会社(本社:東京都江東区、社長:福田 泰久、以下「センコーGHD」)は、3月15日に「センコー泉南PDセンター」(大阪府泉南市、以下「新センター」)の竣工式を行いました。新センターはセンコーGHDが建設し、センコー株式会社(本社:大阪市北区、社長:福田 泰久、以下「センコー」)へ貸し出す、物流施設賃貸物件の第1号となり、太陽光パネルで発電した電力の自己託送も開始します。

センコーGHDは新センターを皮切りに、センコーグループへより高品質で低コストに物件を提供することを目的に、物流施設の賃貸事業をスタートさせました。提供する物件はデザイン性のある外観で、従業員が心地良く過ごせる休憩スペースを設置するなど、働きやすい環境づくりに配慮しており、今後もこのような物件の建設を予定しています。

新センターは、阪神高速道路「泉佐野南IC」から約5kmにあり、大阪中心部をはじめ兵庫、奈良、和歌山などの関西圏への配送拠点としてアクセスが良く、また、関西国際空港から約12kmにあり、国際貨物の輸出入拠点としても良い立地にあります。洪水や土砂災害、津波ハザードマップの危険エリア外にあり、BCPにも対応しています。

また、太陽光自家消費PPAモデル(※1)の導入により、屋上全面に設置した太陽光パネル(682.5kW)で新センターの使用電力を自家消費しながら、余剰電力をセンコーグループ間で融通する自己託送(※2)を、関西電力株式会社(本社:大阪市北区、代表執行役社長:森本 孝)と共同で取り組み、発電と自己託送は4月1日から開始する予定です。自己託送先は、兵庫県内のセンコーの物流施設2カ所とグループ会社の寺内株式会社(本社:大阪府中央区、社長:末永 義博)が大阪市内で運営する商業施設1カ所を予定しており、グループ間の複数企業をまたぐ3拠点へ自己託送を行うのは、国内初の取り組み(※3)となります。

センコーグループは、このような取り組みをグループ全体へ広げることで、経営の効率化を図るとともに脱炭素化社会の実現に寄与していきたいと考えています。



太陽光自家消費PPAモデルと自己託送の流れ

※1 太陽光自家消費PPAモデル: 施設所有者が無償提供する屋根などのスペースに、発電設備の所有・管理を行う会社 (PPA事業者) が設置した設備で発電した電力を施設所有者へ有償提供すること。

※2 自己託送: 企業が太陽光発電設備を導入・発電した電力を、送配電ネットワークを利用して自社他拠点へ送り、使用すること。

※3 関西電力調べ

<センコー泉南PDセンターの概要>

- | | |
|---------|---|
| 1. 所在地 | : 大阪府泉南市北野2-4-2 |
| 2. 建物構造 | : SRC造 地上6階建 |
| 3. 敷地面積 | : 18,172㎡ |
| 4. 延床面積 | : 33,955㎡ |
| 5. 倉庫面積 | : 28,846㎡ |
| 6. 設備 | : 両面バース36台分、クライミングレベラー 1台、ドックレベラー 5台、非常用自家発電設備(260KVA)、太陽光パネル、移動ラック |
| 7. 貸主 | : センコーグループホールディングス株式会社 |

<関連リンク>

・関西電力 HP

<https://www.kepco.co.jp/>

以上